資料4

アーバンデータチャレンジ東京2013
第1回実行委員会　論点

2013年4月5日

論点

①イベントの名称

②地方自治体への声かけ方法

③最終的な表彰の方法

④実行委員の皆様にお願いする事柄

①イベントの名称

- 名称案:アーバンデータチャレンジ東京2013
- 短縮表記: UDC東京2013

②地方自治体への声かけ方法

- 6月10日開催のCSISシンポジウムに向けた声かけ
  - シンポジウムにて課題を出してもらうのをきっかけに、活動に参画してほしい
  - スケジュール：　シンポジウムのプログラムリリースはGW明けのため、案内は4月中旬に
  - 声かけ方法：
    どのように案内（手紙）を出すか　※まずは関心があるかを聞くレベル
    案内（手紙）は広く出しつつ、幾つかの自治体はピンポイントで打診したい
    市町村に直接案内を送付
    案内送付の宛先リスト作成が必要
  - 対象部署：　情報、土木・まちづくり
- 6月10日のシンポジウムで登壇しない自治体も含めて声かけは継続
- データ利用・流通・オープンデータ等への取組みに対する意欲の高い現状の顕在化層（全自治体の3～5%想定）に加え、潜在層（全自治体の3～5割想定）にアプローチしたい
- 対象となる自治体、データは下記を想定
  - 課題がある：データがない、データがある
  - データは出した（出してみたい）けど課題がない、わからない、ツールがない
- 興味を示した自治体に対しては、幹事内で地域担当を決め、6～8月にかけてコンタクトを取って自治体ごとの課題を整理

③最終的な表彰の方法

- 想定しているプロセス
  - 6月10日のCSISシンポジウムや、各自治体とのやり取りの中で明らかとなった課題を、指定課題としてリスト化してデータリストと共に公表
  - 2月中旬にアイデア、アプリ、データセットの募集を締切り
  - 3月までに評価
- アプリの実装まで行う主体に対して、実装にかかる費用の補助金を渡すことも一案
- 一旦出されアイデアをもとに、それを別の主体がアプリとして実現するような流れを入れるか（自治体職員などはアイデアを持っていてもアプリの実装までは難しいことも想定される）

④実行委員の皆様にお願いする事柄

- 詳細は次回の実行委員会時に議論させて頂く（表彰の方法や中間で実施するイベントが定まってから）
- 例えば
  - 自治体に、二次利用可能な形式でデータを出して貰った場合に実現する活用事例や見せ方の事例を紹介頂きたいと考えています
  - アプリの作り手を集める方法についてお知恵を貸してください
  - イベントの進め方、ノウハウなどについても是非お教えください！
- 実行委員は4月一杯くらいまでは受け付けたい
（声をかけるとよい方がいらっしゃれば、教えて頂く直接誘って頂くなどお願いします）

あえて数値目標の設定！

- 首都圏自治体（約350）のうち、70自治体（2割）が、
  1回以上イベントに来場、
  あるいはデータを提供。

次回実行委員会の主な検討事項

- 自治体打診の回答速報
- 6/10のキックオフイベント内容
- 自治体からのデータ収集に関する方針
- 実行委員内の役割分担
- その他